

7月の基調判断 緩やかな持ち直し

製造業	➡	緩やかな持ち直し	住宅着工	➡	弱い動き
観光	➡	増加基調にある	公共工事	➡	高水準で推移している
小売店販売	➡	底堅く推移している	雇用	➡	弱含み
乗用車販売	⬆	持ち直しの兆し	企業倒産	➡	増加基調にある

[前月の基調判断からの変化] ⬆ 引き上げ ➡ 据え置き ⬇ 引き下げ

注) 1. 基調判断は足元の状況
2. 小売店販売は、百貨店・スーパー、コンビニエンスストア、ドラッグストア、ホームセンター、家電大型専門店の販売動向

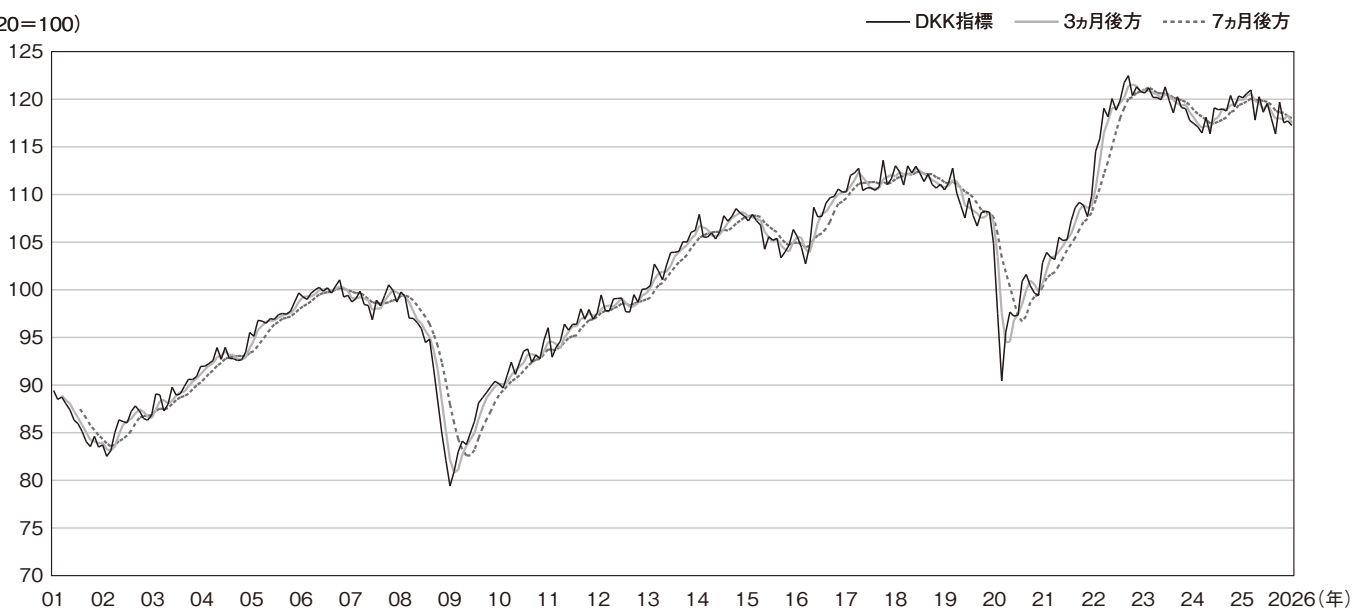
大分県の主要経済指標の動き

	2025. 5	6	7	8	9	10	11	12	2026. 1	2	3	4	5
鉱工業生産指数	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
小売店販売額	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
乗用車・軽乗用車販売台数	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	●
新設住宅着工戸数	○	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
公共工事保証請負額	○	○	●	●	○	○	○	○	●	●	△	●	●
ホテル宿泊客数	○	○	●	○	○	○	○	○	●	○	○	●	○
新規求人数	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
企業倒産件数	△	○	○	●	△	○	●	●	△	●	○	○	○
プラス指標の割合	75.0	75.0	62.5	37.5	50.0	62.5	50.0	50.0	25.0	37.5	62.5	50.0	57.1

注) 1. 指標は前年同月比較 ○=前年比好転 △=前年並み ●=前年比悪化
2. 鉱工業生産指数は公表日の関係から最新月「—」表示
3. 小売店販売額は、百貨店・スーパー、コンビニエンスストア、ドラッグストア、ホームセンター、家電大型専門店の合計
4. 公共工事保証請負額は西日本建設業保証分
5. ホテル宿泊客数は県内宿泊施設の計

DKK 指標 (2026年4月)

(2020=100)



注) 3ヵ月後方移動平均は足元の変化をつかみやすく、7ヵ月後方移動平均は変化が定着しつつあることを確認する値。
※本指標は、大銀経済経営研究所オリジナルの景気指標です。大分県経済の把握に重要と判断した指標についてCIモデルによる分析を通じて算出したものです。

DKK 指標 (CI) によると、4月の指数は前月比▲0.47の117.2と2ヵ月ぶりの低下となりました。項目別では、「輸入額」「宿泊客数」「所定外労働時間数」「鉱工業生産指数」等がマイナスに寄与しました。指数の動きから基調判断は、先月と変わらず、「下方への局面変化」になります。